

算法地方大成

租税之部

二

ワ登-3

473

2

ワ 3

473

2



7 3  
門 燈  
號 473  
卷 2



算法地方大成卷之二

東都

秋田十七郎義一編

阿波岐曾藏書

○檢見取箇付の事

一 檢見ハ其年の取箇を極る事ゆゑ容易の事小あはば膏  
 毛一ト通り足分の上扱ふ其土北お應の取箇は八屆きか  
 む百姓の難儀もつゝりば取箇とハ安きとあらねど取箇  
 とときハ村方も困究一領主北取の爲も宜しうは後  
 中央を見極取箇を付極一取箇ハ坪刈鞠の多おを以て  
 極む坪刈強きハと爲る取箇極弱きハと爲る謂百姓の甘小ある

算法地方大成卷之二

仍て出来方の扱扱と根取十ヶ年十四又ヶ年以來の取箇其  
土地皆急村方盛衰等巨細小考へ合せ中央の取箇を定  
むる

一 検見田村の取箇盛衰さしけ中人敷あり村方難儀不及ざる  
折ふりてすべし去あがり余り人数省略いし是時ハ検見た  
らる日敷わたりて末の田村ハ毛刈取の取箇ある事あり  
入屋さ程の人数ハ百連屋一随分手廻一紋一ありも予  
検見取やふ取斗ふべし一 検見ハ毛刈取を禁川上ハ  
一日或ハ半日と年ふものあり茶日括見海バ刈取べきを翌日へ  
延く若し一日風又ハ永雨等の身支あはば刈取延引し  
来姓もあはしく成其上過分の溢れ捨り業性も勝る一日の事

あて百姓換取あふり依り成べきは手廻すへは換あ  
検見と兼略せよといふあり其村限り山間谷の隅しき  
村取人の案内あて委しく見かいつし一 右手帳を換へ並其  
村限り巨細小作方の中より水換旱換取用水をり山方里方  
等古来換地の良の土地見積り廣狭地味の急急村立の移子  
何方の外百姓の助成村方の有無市協町協津出りの遠近  
海川取の運送等と委しく一 田見書不認め並取箇付の良  
考へ合せ取箇換ざる換ふすべし其外何小寄らば知ふある  
換取率ハ徳正後へ入用ある率も多し

外心は成り奉り事ハ其心付次才不有べし

一 田畑古検新検 紙法の中さきう 位候 旨候 石盛守 濰分帳 あひの耕北切坪限り 毛足ともい百姓お下見

毛書付 つこさセ歩刈合 田方字限り又ハ二口ケ和歩立とも書出以上中下

下と書分帳と歩刈まハ新を以て推す畑方法作も書付る

内小より

村盛衰

歩刈

検見道

立毛若忌

畑方立毛

百姓

見取と見る 中取とみる

心付取とつけ

年換帳 耕 升さし 粗換帳

但一千成を立田主の各端和字

立田主と歩刈おけりて申へり之

百姓の足せたるお心付也

風水換取き為き帳 一換帳 換交り此立條ま田

お田中付 書付けおくもるおても歩刈おても見る

三系の本のふみ雜敷

畑菜のふみ

作毛のあけおとせ 云不とつみ付

作似いりてさきり

私領入組

覺書

百姓の人形とけし附産屋奉寄へ合會 若農小法作の 帳子とけし

田畑子入

作物負敷程もい 法依取実記一也

商賣山川林海及換以外もて ありてたれどもおとせり

初見不 前々地取領の仕立帳子とけし川除極極普信の帳子 備記等のふみ 年貢米金用定のふみと委し

一代検見八元メ子代と平子代と先換見不田以 橋世道破

損不斗取保い人馬出以 登き格産屋奉寄 出向帳簿り宿あて

就走り宿後司を制以

大道の見分 立毛法更も出る 歩刈換奉り替る 定る 但一考算の上歩刈あくも見る

濰分帳 百姓下見の限限り上中下りの歩刈合毛引合致し上中下 仕方大まらあれバ足分の上仕分り勤兵を替る 後り吟味

村限赤川

上中下下、四限赤川、各教とて毛刻  
又川根なる者もあり

小毛見有不見心江

小百姓とすふかほ小百姓ハ小毛見と  
別ハ長百姓ハ別とあり

永荒場改

初て足冬の村方委細ハ吟味川又  
山岩砂入南引不する亦引不する

田畑成畑田成

新田切係極出極見取場  
字不係入極き心江

手代換見手代式人式ハ三人

手代換見手代式ハ三人ハ先獨帳人  
手代ハ格伯宿化走テ各教  
式と制以下足此田場不立札

百姓下見帳

人平吟味の上百姓あても下足不ぬるあり  
赤川仕格合附帳但一社之詞と取

合毛見合門付

下足の合毛改か後取箇低村石盛  
引付格引付立屋き合毛極格勤各

伴一鰥寡孤獨困疾の者と小毛見あて救ふ心江

毛見時辰

日教之十日土用茶後取て送送  
稲の極首あつみくを期くハ

毎日立札

別毛ハ札と除上中下下ハ但一  
及歩田協字田庄名立屋作形

坪刈春穂

坪刈根とも 年升升さ一人を坪の稲株教一穂の穂教

一穂の稲教を升の教合干減立るまどりの心江麦田水田摘田蔭

田米摘の心江刈取の吟味田場字田庄名取ハ稲株二坪刈

あハ一肥ハ江備に苗場道場村除極換場年尚極稲株分

中ハ心江ある下ハ不見と遠ハ有財ハ之取江取子刈りあり此

外取ハ刈事ある極さ其財の取不寄ハ一毛ハ小毛見不ぬる

及人大勢打寄何其の村さても人々の目利とた多ハ一毛年の

立毛の目尚と立るとあり終て赤川の事も無理成るあさ中ハ不

終ハ念入心路と本とすハ

一毛見とる小稲立晩極稲雨より早稲中稲晩稲風換換より

又見下江見透ハ稲葉ふく取実多少厚き為き穂の長短根の

出来実より批穂先扱ハ不扱ハ稲を麦田水田摘田蔭田

川邊田谷田柳田山陰本陰青立冷水用水天水入稻袴右ま  
稻苗立にふり初稻先の苗貝の一粒まり立稲ちやく若稲若稲振稲振稲成り  
茂らば立心名振煉ある一

百姓下見帳 人形や味の上百姓も下見小物あり  
田川仕指合附此伴一抄詞と取

合毛足合引方 下見の合毛改むは取箇ひき村石盛  
引付指引付小立合毛指括動と取

伴一鞭寡孤獨固疾の者と小毛足あて救小指心は

毛見時名 田敷二十日土用若後而く速速  
稲の穂首あうらみたるを抄と取

私領入紙の不見分の心は 稗の思ふより種と化といひ急後と  
此方といふ田主の名を抄と取

水入場足合 稲の上水冠水入の時名取上取  
左の水場不時の名取と取

毛見勘定 一日多夜毎不指も引あて振多引分  
畝引不立下尺何合毛ハ必引と法と立引分

畑方仍毛足分

麻藍紅花を立草といふ是は本綿煙茅蘭を以て六草といふ

桑楮漆茶を以本といひ外楸荻棠本取

雜穀世菜取

田方毛引多き取跡毛取園上る時畑方引指取取箇付心は田成畑

畑成田荒場起返一又ハ新開あるや心と付一

檢見形少る時ハ其村ハ定免の内あるハ定免始りてハ村何檢と年

或ハ何々年にあるも内何々年破免致したるや亦ハ破免と年

お札一破免多きハ水旱の難ある村ありと知るがも其年

斗の破免ハ心の付西あり種々札は種々

年と檢見取の村ハ心違て檢見の時名もあれハ内足立札  
小若帳算入相違なき指立例年の通り中付一荒地

起通し一も吟味ししは履きさすなり是ハ六月七月時分改  
極重も宜一村限々帳を見て幸々永引拾石以上ハ公を付  
改む宜一右の通り吟味候の上旦那を以て本蔵司に出立其  
村へ令廻村の旨先達にて中後一ハの通り内見分付念入三ハ  
以上の見込も極小お改帳面来る番目までお持参ししは  
よりお算入再査お改帳は是れ一且合毛五分以上の見込不  
付の合毛等なき極又道筋掃除強ひ等を用由相續べし

一 拵 五合 合合拵

一 竿 三組

併一長六尺を分りおめて一組奉末を切欠内法六尺を分りて  
圓の如くお組あり □ 歩刈の長二方を縮採一當一此のおとく

去りと百姓お踏まへて又二方を入く □ 此の如く歩てさる先  
名を組形地を以見届させ宜一き者中さば刈らせ越お包と結  
ておらま 子宜おへ持寄巻履一を各油形あると記を扱て奉一の内小  
百姓合を減しすありお付べし且竿高振ハ稲珠お竿二方付  
二方適を正法と成あるハ一方付三方付四方付養付多ハ宜一  
くくハ二方付小限とす

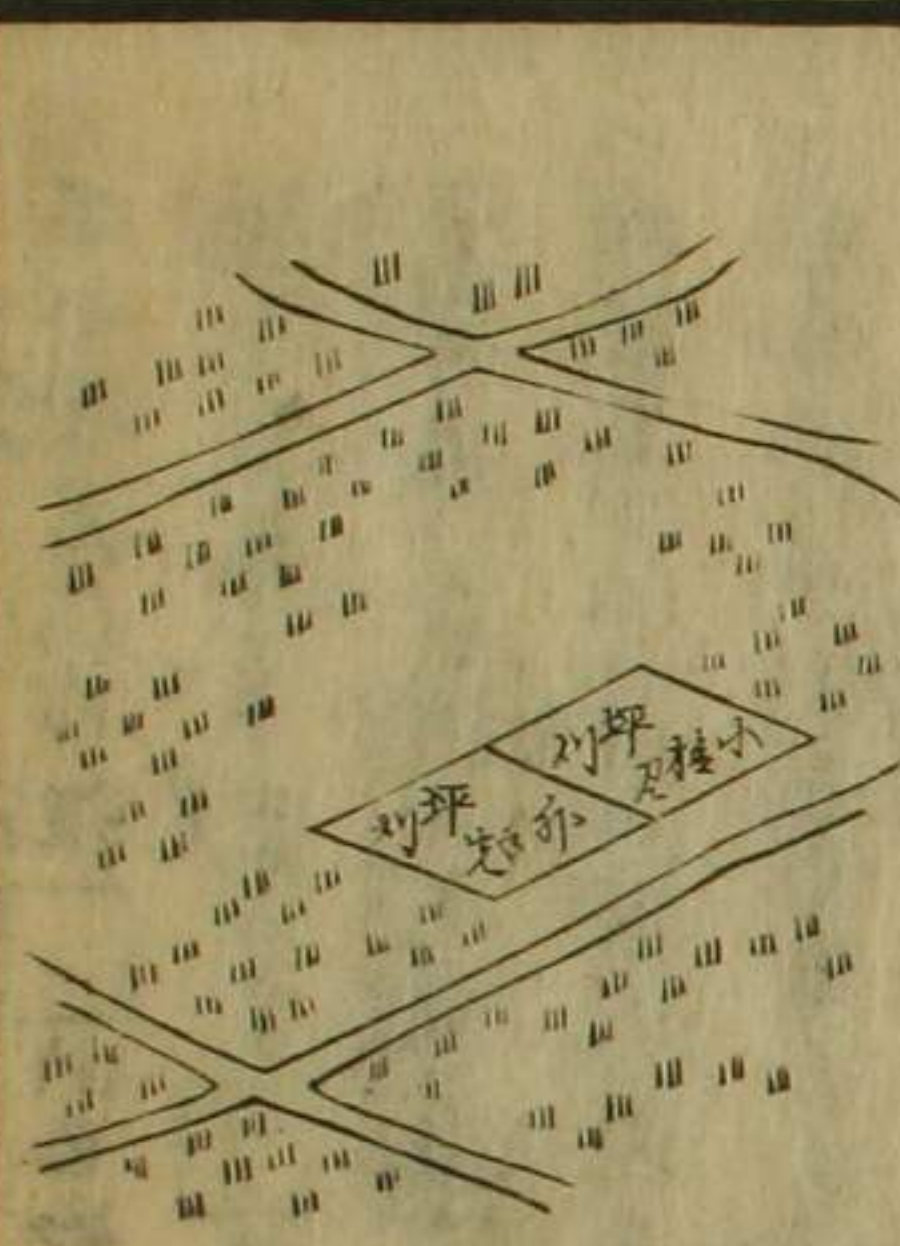
一 田方検見改振先其村へ入附高村ハ何方を去番と為すおめて又ハ  
番も同一年限りお人足と思一大概度候を見五六番の内相遠  
おくハお積番何方と尋せおへお手と七八番も長相遠おくハ其  
通りよしは又お遠おれた百姓おひハ七拾番となつて吟味  
しし事もあり水換おとある村たるとハお換町歩武町歩もあると

又六町歩も余も仕出ると此ハ名指書付て吟味しとせバ是レ  
形あり其時ハ先商人ハ返一進く理解を申セ引戻成  
大方ハ村ハ此水横あり二分又成ハ口分換と大積りを見込取箇と  
胸中に付並取と百姓方にて二分或ハ六分あるハハ皆換ありとい  
立引方と申も多ク形ふとのゆゑ終く心付成

一 検見田村たると日之村四り一両通りあり日殺を百姓  
難儀いしは分付の日又村も田村一改換と云ふ時ハ朝早く  
日の出はよハ出宅す一豊國あど遅く廻ると此ハ雲下に成て換  
毛も斗りぐとくと百姓内換も多し何止申由拾見ハ不仕舞  
率肝要あり

一 坪刈見立指ハ小村へハ小荒地へ引合たるとハヤ見ハ合毛あり

此村ありハ三合刈出さ孫ハ根取不合を以とありテ其坪ハ三拾八  
株ハ四拾株ハ又拾株ハ大概不積り備え株不細式句宛と見込ハ  
四拾株ハ三合刈り見とてハ高合毛と同合ゆ名干減乃  
立指ありハ申すのときハ刈らば又其株不細之句宛と見込ハ  
口指株とて其升式合とありハ合干減用株一も八合ハあるべ  
と見込ハ刈る成



一 坪刈仕指英様指ハ見立第一の事  
あり内見ハ合毛の所あり其升式之  
合ハありと云ふ所と刈あり指とも其  
人の心付テ緩む事あり強き事  
ありたるとハ上田考反歩下見ハ合毛の



小検見何の誰 □ 此の如く是坪刈改め是升又小検見の坪刈たる  
 際より升子先あり □ 此の如く是坪刈改め是升是合勢之此の如く  
 大検見ハ心代の刈改る際と刈改り又心代ハ大検見の刈改る際と  
 刈改ありハ心代の刈改る際と刈改る際と刈改る際と刈改る際と刈改る際と刈改る際と刈改る際と  
 在合毛ハ十分小刈中へ進退大検見の勤辨仕易きやう小取斗小  
 座一坪刈性たの也

仍拾番字仍編の名何  
 一上田志畝拾五歩

地主  
 仍左帯の

改八合

但一  
 一坪口粘株  
 一様式粘中主  
 一穂百粒

仍拾番字仍編の名何  
 一下田志反五畝歩  
 内見三合

地主  
 何么湯

改五合

伴一  
 一様式粘中主  
 一穂七粒粒

此れ小干減を除く事あり合毛多分出ればとて取箇区小  
 増は耐に其材立ごと一勤辨ある下  
 一 兩降又ハ船露の内百姓検見を修る事と種人種とも取箇ハ  
 収人の胸中にある事と合毛ハ大方の様とのありやしも取箇ハ  
 少ありは在兩降或ハ船露を修るるときに粘中とのあれハ  
 粘をあらうくして粘あり又粘とぬとれハ粘と粘の内へ百姓  
 の力まをも小押入させ蓋上くを升とれ其上おも合毛出れば  
 干減と余計小と一是を履一是も尚合毛大意ありて積る  
 事あり

一 坪川帳奥書文左の通り

右者當村田方水横少付に交河檢見奉經河廻村に成下  
以府私大済案内仕田毎小立札を以送て身入地見分は  
私立了及之以内見小若帳を以書付に通引合に成成知也  
坪川合毛は據法成り付私立立合見届は紙干減存存分  
河引法下は改合毛少も未遠無以居は物ル上右河改合毛  
を以何分は取箇也 何分は少も遠宵仕留分は右河改合  
少も河引分取及無以居は右河形指上中而仍出件

年号月日

何國何郡何村

長五

何去清平

組

何右清平

百姓代

何方清平

是ハ一村限に市形を取事ありむ檢見漸々場取もて成下  
取登一少も延引は以以以

一 小若帳仕出に振た之に言ふ百石の村檢見の上坪川合毛を仕出し

右寄

一 九及八畝拾又步 八合毛

一 以初式拾之石六斗四升 七合毛

一 寺町六及六畝步 七合毛

一 以初之及之畝拾式步 六合毛

以初式拾之石七斗六升

五町之及五畝步

五合毛

以粗八拾石式斗六升

五町九及廿七步

四合毛

以粗七拾石九斗八合

拾六町之及步

三合毛

以粗百之拾石九斗

拾六町之及四畝步

式合毛

以粗九拾石式斗四升

四町四及之畝步

壹合毛

以粗拾之石式斗九升

式町之及式畝拾六步

仕付荒皆損

及別合之粗之町之及之畝拾步

粗合百八拾石

刈出式合

伴千威引

以粗之百式拾石

二口合粗八百石

以米百石

取米式百石

寺田取不満

仰式百石

百姓作德米

右仕知一拾八畝の法あり

一畝引よりハ當合の内其年の坪刈合毛を引伸くと尚合より割

付割とある別引畝の割と法見と及別へ其其及別の引畝歩と

知る揚歩市ハ其揚歩ハ斗より田法之とを其坪敷と知るあり

三十九

作商會といふ檢地の長洋刈合毛を升取れば及歩不取之石  
以内百姓支食農具肥一代六斗を引越石四斗と及及の歩  
敷二百五割八合とある先と商會といふ石拾五平均で當  
合と仕出あるは先厘升といふ商會と仕出は事あり  
たといふ

上田武町之及四畝歩

商合八合  
商年洋刈合六合

内及八畝拾五歩引

内及八畝拾五歩引 作引畝歩除く

内及八畝拾五歩引

内 取米拾石又斗三升

内 取米拾石又斗三升

百姓作使米

この如く中田下田ト田の引畝を仕出す人々商討畝引取  
箇に引以候様私儀あり仕米も今以て用ふる所もあり

○諸國相場出の事

一 上方筋諸國石代金納小用ふる相場其西々市店取相場  
酒界場等一國の内之を和あるは又その定りありて毎年  
十月十日より毎日中下米相場書穀同屋若より  
取入へ差出一日取十六日の寫上米相場平均して其國との定  
法不備等言或は何處相場増しを如く何れ吟味の上石代並  
に極う其重辰を以て年々定石代金納の以て事ありたり  
風水旱虫の損毛等々米価急変米納不成とさき分又細  
ありて形代と唱へ石穀吟味の上何れ言と重辰積増しの



取米之拾五石程あるゆゑを儀と云ふ斗六斗入と云ふ儀取の面々  
 知事百石百儀の定法小成より右儀入申古と納米斗  
 辨ま斗六ま斗五斗四ゆゑ斗五斗入を儀ハ斗六斗余あり其後  
 養民に故とてを儀斗二斗程も入目減ずるあり程  
 又元和年中百姓に故とて斗六斗又斗五斗の延米を加へ  
 斗七斗入申く納む斗六斗六斗入り七斗斗八斗辨ま斗五斗  
 あり享保年中斗七斗の上延米斗五斗を加へ納むる事始り  
 しが享保限あて止むす元の斗七斗入とあり  
 一 姓古小治の面々へ勝手の上田の協而下され由斗六斗又斗入  
 斗五斗延米と云ふ又斗五斗を加へ斗六斗儀ありて而も斗六斗  
 松領上知又ハ國留申あて松領斗付を以て古米の儀入申て

納るゆゑ辨目遠ひあり武州新府郡大嶺杯の辨目ハ斗六斗  
 斗入と納むるを斗六斗入の勘定申すゆゑを儀斗七  
 斗の延米あり  
 一 甲斐國の年貢米ハ納儀入甲州斗六斗斗六斗入あり  
 甲州辨ハ武田時代よりの遺法申す今の系辨斗六斗申す甲州  
 辨斗六斗あり尚時も斗六斗と用ふを系辨も用ふれ  
 ども稀の事あり於て斗六斗と辨目を唱ふると元ハ甲州辨  
 あり又系辨を用ふるとハ系辨斗六斗と系辨斗六斗と係と  
 改る事あり甲州辨ハ 官辨の辨斗六斗申す甲州辨斗六斗  
 辨斗六斗と用ひ但し系辨斗六斗申す甲州辨斗六斗  
 合と申す系辨斗六斗斗六斗と申す甲州辨斗六斗  
 斗六斗と申す系辨斗六斗斗六斗と申す甲州辨斗六斗

高妻等も字ら小字らと呼て升月をいり右式斗式升  
 入ハ系排あて六斗六升あり又右指申一々米之斗六升小字ら  
 直きを米心置一きゆ多六斗六升の粗を指て米之斗六升  
 と多てらものとみえ甲州米を儀ハ之斗六升入あり此割  
 合ありき升の粗を指て又合に白石余に當り性古粗細を  
 日本一統といとも甲州ハ世上米納小ありたる以後とも粗納小  
 といたるより今ハ米納あり

○小物成浮收の事

一 小物成浮收ハ年貢の外小納る名目あり小物成ハ惣名ありて  
 浮收ハ其内の一あり年貢のものを物成といふ一仍く小年  
 貢といふ事ありて小物成と唱ふ田畑より納る年貢ハ本達と

一 世後山嶺林永漁捕收池川海收を外あり乃名目  
 ありて古来より名目不記一定納小收物と記て小物成といふあり  
 地不ありくを地より納る小物成ハ持重もあり又を職品ありて  
 納るも納るあれども性古より名目ありて何ゆゑ納といふ事  
 村方てももるべし支配地記ても辨へざるもあり是等ハ惣  
 村中言割又ハ本達年貢の取来言小を納るも何れも性古不記一  
 定納小成小物成ハ初初後りの名物成造とて米形れは米石と  
 言武石永ハ言費文と言石石上言筋ハ永年銀徳あり  
 銀ありハ六拾目銀ハ四費文と言言費と一合言費と言石石筋  
 不仕来一石中古より言費と武石石斗代ありて後りてより  
 上方の分ハ武石石斗筋の定法あり東海道筋ハ永言の村多し

志要文と云ふ事此とき若くしり石代あれは言ふ石代の内不  
 承言子要文あれは石代の言不承一石代の於合と云若石代  
 方の村と云ふ事此とき途ハ石代小物成ハ石代平代あり  
 候是あてハ言不承不承由多ク格の村方知新後り不承ら  
 其言不承一石代あり又浮波ハ海山川漁獵浦河岸各  
 駐鯛酒樽所居松茸あるハ金銀銅鉄湯鉄山運上  
 等の商産物又ハ二年三年の請負物杯ハ皆浮波不承あり  
 止時もあつて浮波と云ふ知新後一の長言不承び入る  
 事あり  
 一 万石以下の知新後一ハ小物成と云ふ事此言石以上ハ外  
 あり、後述よりあり

一 山年貢ハ百姓持山及別あり、地を格り年貢米金貢  
 敷も出方定り本米取米又無及別もあり或ハ惣村入會あり  
 持主定りる山方もあり、地格不承一、年貢差出は事  
 あり同ハ山年貢も山言不承結比年貢納り山ハ田畑同格不  
 本途物成の内不入る言并の山年貢ハ小物成の内あり格主  
 あり山ハ田畑同格は質入あり、一、賣買もある事あり  
 一 小物成ハ山年貢同格あり、格目格りたる事での事あり  
 一 山年貢ハ山年貢同格あり、格目格りたる事での事あり  
 米永あても差出さば、一、村中百姓入會  
 仕来り山年貢と格付米金納り類ハと云、後、本米代  
 付、一、たる言ハ山年貢免を、筋あれども小物成の納り



定納不取てい本家の存身小拘ら減トがさし赤一向の元山  
不用の地も隣々の惣目と合納しつゝをたれ役永納む  
るもあり

一 山子米永納の内地由ら尺村持て秣等刈取山子米永納め  
又外村より坐者あれば山子米永納出させ山札を海一穿  
兼刈らする事もあるあり

一 世年貢の原地等及別と清化村入會あり秣苧取年貢  
上納するといふ世方の多分持重は多く熱村持あり然て世山  
あても山系とも及別ありて及不兼永納取と定りると  
世年貢といふ事及別あてハ世子米取米永納といひつら  
是も小物成なり又世言とて村方の内小入てありハ田畑同扱

本途物成の内あり

一 野役米ハ及別もちり芝系等も定立ば不用の地あるども  
曠世系丘居村化村の惣目と合納しつゝをたれ役永納  
るもあり

一 野子米永納秣立一系母等熱村持て世子米永納納め村  
中入會秣刈取村中川あまる程の大協あるは化村へ年札を  
取一色世子米永納と取出させ入會不利取すもあり是れ  
化々化村教を村入會の世分もありつやうの類ハ及別乃  
場而多し

一 年貢ハ兼乗ある世年貢は振世方原地考換地致し  
及別を付年貢と納すといふ事年貢と唱へ亦世年貢と

唱も各日遠くあてておく日振の事あり

一 茶役米ハ及別もあき度世ハ株を蒔り役米を出はといふ  
 及別もあれむ株代敷も積り難くれハ希くより仕来りあて  
 役米負敷を極め定納は若く又新規役米永等中付る  
 ない度候と考へす近隣等見合村方對候珍味の上中  
 付る事あり

一 茶代といふも茶役米の形あり又ハ他村へ芝茶を蒔せ代  
 米永何程と極め上納する形といふあり

一 茶年貢ハ言外及別ある所茶を極重し又ハ畑中へ茶を  
 極重ハ検地の茶茶菌の分年除ふ取茶年貢米令上  
 納しは言外内同極重取ふ去あぐり言外ゆゑ本途

年貢小入生以小物成の形ありむ茶菌を言外結び入るも  
 あり又ハ茶年貢米永小入茶年貢茶収を納めは茶年  
 貢ハ外品と違ひ物年貢も上り畑の取箇小付其意を  
 以て言外も極別より一々付合

一 茶収ハ及別もあき世方ありハ山の麓互地等小茶を極端  
 村分終息ざるや言外内同極重取銀を出は亦村内入會の  
 世方杯極付茶収を納む化村のものへ協正限り茶の本あて  
 賣もあり

一 備年貢ハ山系地或ハ地通り杯空地小漆本を極重年貢上  
 納しは畑小ある漆本ハ言外入る漆畑もありあれハ上の畑の  
 年貢上納は實ハ備年貢とて納る備實備核寄備みど

而くあり大和奥羽越後等不多一武州秩父甲州杯も  
ありき外國く山寄ふハワ方もあり奥州會津領ハ蠟  
檢見あり也一漆器楮杯ハ三尺廻りを米を分米寺井と極の  
を米小永武文皆ハ二版の定法あり國小より漆器楮杯を檢  
見する所もあり

一極年貢ハ九州小多一上方実米多ハ一蠟實小似るもの  
ありて蠟燭鬚付油等ふるある地通り杯楮杯山極とハ方少も  
あれども此合軍一ハ代汝之の場而大小より一木穀中々年貢を  
納る蠟年貢よりハ楮別に劣るあり

一松山藪林年貢ハ百姓持松林雜木竹藪等の年貢あり在  
處傳の而林藪等楮別度々ハ在處歩不入在處年貢納め

てハ百姓雜後ハハ以ゆ名を發及別ハハ世代林藪後中付る  
もあり或ハ其村の林化村境の場而ハたと松竹等生立兼る  
而少ても村境分り少し一在ハ年貢少く了納むる事  
あり松山林藪等ハ殆く地主あり又杉規ハ年貢収永く  
中付るハ場不々写し一ハ大繩反別相極及ハ何種と極む  
又喜反別少く中付る者ハ竹本生育の極子見斗ハ尚隣々  
等の見合考辨を以て中付る事あり  
一茂年貢ハ地方濱方杯少くハ隱作毛生立ざる場而茂  
極付及ハ米何種と上納するあり言内の田代而も年貢  
有肩了一ハ他物仕付るべき協折と相何ハ茂極付年  
貢上納するものハ是ハ本途不入言外の分ハ小物成

又及言流作協多不抽<sup>うま</sup>する年貢も本途の内入る<sup>うま</sup>は  
川通りの北面<sup>かへ</sup>の押法<sup>おし</sup>き場<sup>ば</sup>の除<sup>のぞ</sup>のため<sup>ため</sup>蒭<sup>か</sup>を抽<sup>うま</sup>柵<sup>さく</sup>不<sup>ふ</sup>致<sup>ち</sup>  
蒭<sup>か</sup>代<sup>しろ</sup>と納<sup>の</sup>する<sup>も</sup>あり蒭<sup>か</sup>へ水<sup>みづ</sup>旱<sup>の</sup>の難<sup>がた</sup>なき<sup>もの</sup>ゆゑ<sup>ゆゑ</sup>収<sup>と</sup>永<sup>と</sup>年<sup>ねん</sup>  
貢<sup>ぎやう</sup>等<sup>ら</sup>も反<sup>た</sup>取<sup>と</sup>り言<sup>い</sup>く<sup>け</sup>付<sup>け</sup>る<sup>事</sup>あり蒭<sup>か</sup>ま荒<sup>あ</sup>へ<sup>ま</sup>杯<sup>はい</sup>も世<sup>よ</sup>言<sup>い</sup>と  
名<sup>な</sup>月<sup>げつ</sup>取<sup>と</sup>へ<sup>定</sup>免<sup>めん</sup>五<sup>ご</sup>石<sup>せき</sup>あり

一 萱<sup>うや</sup>世<sup>よ</sup>後<sup>ご</sup>へ言<sup>い</sup>外<sup>ほか</sup>萱<sup>うや</sup>世<sup>よ</sup>及<sup>およ</sup>別<sup>べつ</sup>あり<sup>く</sup>及<sup>およ</sup>不<sup>ふ</sup>取<sup>と</sup>る<sup>も</sup>米<sup>こめ</sup>永<sup>と</sup>年<sup>ねん</sup>を  
納<sup>の</sup>む<sup>萱</sup>世<sup>よ</sup>生<sup>せい</sup>之<sup>の</sup>苦<sup>く</sup>急<sup>きふ</sup>不<sup>ふ</sup>拘<sup>く</sup>ら<sup>ば</sup>定<sup>てい</sup>納<sup>なつ</sup>なり<sup>む</sup>言<sup>い</sup>内<sup>うち</sup>の<sup>萱</sup>世<sup>よ</sup>も  
あり<sup>先</sup>ハ<sup>本</sup>途<sup>ほん</sup>烟<sup>えん</sup>年<sup>ねん</sup>貢<sup>ぎやう</sup>入<sup>い</sup>る<sup>も</sup>萱<sup>うや</sup>畑<sup>はた</sup>と<sup>唱</sup>へ<sup>越</sup>後<sup>えつご</sup>國<sup>くに</sup>蒲<sup>ふ</sup>永<sup>と</sup>郡<sup>ぐん</sup>  
杯<sup>はい</sup>不<sup>ふ</sup>多<sup>た</sup>し

一 林<sup>りん</sup>下<sup>げ</sup>茶<sup>ちや</sup>後<sup>ご</sup>へ<sup>所</sup>林<sup>りん</sup>英<sup>えい</sup>領<sup>りやう</sup>主<sup>しゆ</sup>地<sup>ち</sup>改<sup>かい</sup>の<sup>林</sup>下<sup>げ</sup>草<sup>そう</sup>を<sup>村</sup>方<sup>ほう</sup>み<sup>て</sup>蒭<sup>か</sup>取<sup>と</sup>  
収<sup>と</sup>永<sup>と</sup>納<sup>なつ</sup>む<sup>も</sup>と<sup>し</sup>林<sup>りん</sup>の<sup>廣</sup>狭<sup>くわ</sup>不<sup>ふ</sup>定<sup>てい</sup>ぐ<sup>ら</sup>ひ<sup>不</sup>取<sup>と</sup>り<sup>より</sup>定<sup>てい</sup>納<sup>なつ</sup>む

お成<sup>なり</sup>ハ<sup>小</sup>物<sup>せう</sup>成<sup>なり</sup>の内<sup>うち</sup>あり<sup>又</sup>ハ<sup>そ</sup>年<sup>ねん</sup>の<sup>萱</sup>世<sup>よ</sup>言<sup>い</sup>ふ<sup>より</sup>交<sup>か</sup>貢<sup>ぎやう</sup>あ<sup>て</sup>  
年<sup>ねん</sup>ハ<sup>不</sup>同<sup>どう</sup>ある<sup>も</sup>あ<sup>る</sup>先<sup>ま</sup>ハ<sup>定</sup>納<sup>てい</sup>物<sup>ぶつ</sup>ハ<sup>入</sup>ら<sup>ば</sup>臨<sup>りん</sup>時<sup>じ</sup>浮<sup>うき</sup>収<sup>と</sup>物<sup>ぶつ</sup>の  
内<sup>うち</sup>入<sup>い</sup>る<sup>も</sup>あり<sup>右</sup>林<sup>りん</sup>田<sup>でん</sup>畑<sup>はた</sup>言<sup>い</sup>ふ<sup>も</sup>同<sup>どう</sup>發<sup>はつ</sup>の<sup>以</sup>事<sup>じ</sup>も<sup>あり</sup>

一 河<sup>か</sup>岸<sup>がん</sup>収<sup>と</sup>ハ<sup>川</sup>船<sup>せん</sup>着<sup>ちやく</sup>の<sup>河</sup>岸<sup>がん</sup>収<sup>と</sup>永<sup>と</sup>なり<sup>船</sup>同<sup>どう</sup>屋<sup>や</sup>より<sup>同</sup>屋<sup>や</sup>運<sup>うん</sup>上<sup>じやう</sup>  
お納<sup>の</sup>め<sup>事</sup>引<sup>ひ</sup>付<sup>け</sup>み<sup>く</sup>河<sup>か</sup>岸<sup>がん</sup>収<sup>と</sup>永<sup>と</sup>も<sup>納</sup>来<sup>き</sup>り<sup>た</sup>る<sup>も</sup>と<sup>川</sup>  
筋<sup>すぢ</sup>の<sup>様</sup>根<sup>ね</sup>ち<sup>ぐ</sup>ひ<sup>船</sup>着<sup>ちやく</sup>ハ<sup>止</sup>ま<sup>る</sup>も<sup>小</sup>物<sup>せう</sup>成<sup>なり</sup>の<sup>名</sup>月<sup>げつ</sup>み<sup>く</sup>定<sup>てい</sup>納<sup>なつ</sup>ふ  
あり<sup>く</sup>ら<sup>ひ</sup>取<sup>と</sup>り<sup>納</sup>る<sup>事</sup>あり

一 池<sup>いけ</sup>収<sup>と</sup>ハ<sup>池</sup>等<sup>ら</sup>と<sup>取</sup>肥<sup>こ</sup>し<sup>み</sup>致<sup>ち</sup>し<sup>或</sup>ハ<sup>其</sup>荒<sup>あ</sup>を<sup>蒭</sup>を<sup>蒭</sup>取<sup>と</sup>り<sup>も</sup>  
村<sup>むら</sup>方<sup>ほう</sup>助<sup>すけ</sup>成<sup>なり</sup>不<sup>ふ</sup>取<sup>と</sup>る<sup>池</sup>あ<sup>る</sup>も<sup>収</sup>永<sup>と</sup>永<sup>と</sup>上<sup>じやう</sup>納<sup>なつ</sup>る<sup>も</sup>あり  
一 池<sup>いけ</sup>魚<sup>いそ</sup>収<sup>と</sup>ハ<sup>池</sup>と<sup>漁</sup>と<sup>致</sup>し<sup>収</sup>令<sup>しやう</sup>熱<sup>ねつ</sup>村<sup>むら</sup>より<sup>納</sup>る<sup>も</sup>あり<sup>バ</sup>捕<sup>と</sup>師<sup>し</sup>  
極<sup>きく</sup>り<sup>あ</sup>る<sup>も</sup>其<sup>その</sup>者<sup>もの</sup>ど<sup>も</sup>より<sup>納</sup>る<sup>も</sup>あり<sup>た</sup>る<sup>も</sup>漁<sup>ぎよ</sup>業<sup>ぎやう</sup>致<sup>ち</sup>さ<sup>ば</sup>も

一旦小物成の各目あて定納みあれば獵のむを不拘らば村  
方より役令を出はあり

一 綱代へ横辺又ハ川通り獵師共より役永を出る獵場の  
儀ハ兼く仕来たるは他村の地之も綱と入る海邊の分ハ  
化國化領よりとも入舎不漁業致は志うれいと海川とも  
兼く仕来の外新規の兼いお成らば若兼く綱代ハ納め  
獵師をくとも不候ふある一 小物成各目なれを漁業者  
を不拘らば定納あり

一 綱代役ハ大川筋鮫鱈鱒等綱代を立る役永綱代主と  
定め者者の持場極り村方若出の的細張等も場所  
字記一り化國地元村より隣る兼杯交くお成らばを

古来より持来りたる持取ハ紙綱代主は休持ても役永ハ上  
納紙紙新規綱代協お成らば若く新出る子細によつて  
若免を筋ありとも兼く持来りたる綱代株の者若隣り  
あいては是又お成らば吟味を上げ若後若隣り等熱方  
熱候の上ハ何の上新規より替るるも有り候他村下等  
新規の兼い交てお成らばむ役永ハ村々不同あり  
一 各原紙ハ里方にある事あり熱地の水付へ存鴨の付より成  
紙生し役令を納む又獵師より納るもあり又村役あり  
出候もあり小物成の各目にあつたらハ定納あり  
一 紙船紙ハ箱を紙と紙紙源の役紙あり是ハ村役不出候  
あり紙紙源より紙一紙より付何種と役令を出候紙

海商賣の甲乙あり大勢ありて海ハ私教不願ト多く納む左  
すれ紙係極お止むべきハ私教免を廢こそ事なれども外の  
極と遠ハ紙係ハ酒抹日指あり新規ハ容易ハ免免さる  
るゆゑ私抹ありて海手中絶いさばとも村割ありて収令  
納免き進て抹人出来の良紙係取るため免除ハ付ざり  
事あり

右小物成浮取ハ國々村々不仍く而くの名目あり故奉るるに  
いとまありて今荒す」と記以又村方の者も往古何ゆゑ  
納めたるや當時名目をハ一向私私れざる小物成定納不致以  
もありたれども各此外書不記一室納不仕来し小物成ハ  
物成詰あり知り海の良言と結び入るゝ付免除あり

ざる事あり際時浮取奉奉物又と運上眞加永等ハ小  
物成とい格別あり知り海の良言と結び入るゝ付  
之職品止せ運上級永等も免許あり

○は米の承の事

一は米の承ハ古来よりの引付ありて関東の口米ハ本途ニ斗五升  
入る儀ハ米五升宛納む本米を石ハ付貳升八合五勺七文不  
あくる上方筋ハ本米を石ハ米五升宛遠州より西の國々ハ  
上方に付三州より東ハ出湘奥州まゝ関東ハ付む奥州乃  
内田村石川両郡ハ本米を石ハ米六升伊達信吏字多  
三郡ハ本米を石ハ米五升白川岩瀬両郡ハ米石五升  
米三升甲州ハ本米を石ハ米四升ハ合四勺余宛る上

州郡馬郡の内本米を石小に米六升又ハ口升貳合納る  
村方もあり國々あり少異あれども大方ハ上方より  
中國西國筋すぐ本米を石小に米三升實東筋奥州  
羽州迄を本米三升六升小に米を升あり元米は米は  
永とて年貢の外小取立る事ハ地方をりの備入用毎年  
墨紙を外諸雜費のへ用りて年貢米の言小をて取  
立るなり古來ハ米永地方をりの役人收納せしが中古より  
皆上納に放て列小入用米金交取ありむ私領へ押領の場  
所ハ古來の通り當時も米永下より甲州の米四升  
六合は白余ハ余國より多きゆ多公納は三升口とて三升口ハ  
地方をり備入用りて海り米升六合は白余ハ公納口とて

上納に今ハ掛らば上納小あると口ども古代名目の終りて  
三升口ハ石代令納公納ハ米納あり奥州の三升口も  
三升ハ石代貳升ハ米納あり  
一 口永ハ上方實東諸國とも本米を費文小ハ永三指文をる  
遠國等小ハ仕来りあり稀小ハ掛り方遠ハあり奥州  
石川郡ハ本米拾六貫文小ハ永を費文あり先ハ本米を費  
文小ハ永六拾貳文小ハ白川郡ハ本米を費文小ハ永  
口拾壹文小ハ六厘六毛あり格の於尚余國もあるべけれ  
ど大抵ハ三升口とてを費文小ハ拾文の定ありむ私領  
方小ハ仕来りあり不同あり既小武州世又領杯ハ今ハ本米  
八貫文小ハ永貳百六拾文宛をるあり奥州杯の口永不同も

私領上知と見えたり但一口米の算法上方筋遠國ハ本米  
 小之と見ゆ水と見ゆ買米ハ本米を二匹割に米と見ゆあり  
 一 甲州公納ハ右代納納時甲州糶斗小摺減斗升入納  
 合式斗式升少くは糶斗升取るそ後糶を六合摺小積りて  
 米納小ある但一甲州糶斗升ハ京糶斗升之升なり右甲州  
 糶の糶斗式升を摺て京糶斗升之米三斗九升六合ます  
 甲州糶の口糶斗升を摺ハ京糶斗升之米斗八合とある也  
 小米斗石ハ米斗升六合口ハ六斗余に満るあり

○ 高掛り物の事

一 高掛り物ハ往古ハ人別小を中古ハ及別小を今ハ村言小を取  
 立るあり也 所集印古社領除地公家門跡の領地ハ必収金斗り

その其外定式の言るもの村言の内諸役免除の記文  
 ある又ハ兼くより言収免除の言ハ年貢斗り納め言る  
 物ハ除くあり但一言るハ百姓収中も小物成ハ別なり  
 仍く言小積り  
 所傳馬着入用米六尺給米所給米着入用米を二匹といふ言  
 多りて納む所傳馬着入用ハ空永四斗年より言百石斗付  
 米六斗宛納む是ハ五海道同屋本陳給米其外宿方入用  
 米ある石代令納あり六尺給米ハ言百石斗付米斗式斗  
 納む是ハ主人と百姓収不村より言さし物たる也  
 京係年申主人の人数を積りて給米村多を米を納む  
 あり是を六尺給米といふ石代令納あり引付わく米納



の石も市ノ所<sup>すけ</sup>茶<sup>ちや</sup>茶<sup>ちや</sup>入<sup>い</sup>用上<sup>じやうじやう</sup>方<sup>かた</sup>ハ言<sup>い</sup>百<sup>ひゃく</sup>石<sup>しやく</sup>不<sup>ふ</sup>付<sup>つ</sup>銀<sup>ぎん</sup>拾<sup>しゆ</sup>不<sup>ふ</sup>冥<sup>めい</sup>  
 東<sup>とう</sup>八<sup>はち</sup>条<sup>じやう</sup>式<sup>しやく</sup>百<sup>ひゃく</sup>不<sup>ふ</sup>括<sup>くわく</sup>文<sup>ぶん</sup>免<sup>めん</sup>納<sup>なつ</sup>む毛<sup>もう</sup>ハ所<sup>しよ</sup>米<sup>まい</sup>茶<sup>ちや</sup>諸<sup>しよ</sup>入<sup>い</sup>用<sup>じやうじやう</sup>者<sup>しや</sup>右<sup>みぎ</sup>之<sup>し</sup>役<sup>やく</sup>  
 私<sup>し</sup>領<sup>りやう</sup>争<sup>しやう</sup>々<sup>しやう</sup>あき<sup>あき</sup>り<sup>り</sup>者<sup>しや</sup>者<sup>しや</sup>私<sup>し</sup>領<sup>りやう</sup>儀<sup>ぎ</sup>り<sup>り</sup>不<sup>ふ</sup>者<sup>しや</sup>一<sup>いつ</sup>村<sup>むら</sup>方<sup>かた</sup>ハ所<sup>しよ</sup>傳<sup>でん</sup>馬<sup>ば</sup>  
 宿<sup>しゆく</sup>入<sup>い</sup>用<sup>じやうじやう</sup>六<sup>ろく</sup>尺<sup>しやく</sup>給<sup>じゆ</sup>米<sup>まい</sup>合<sup>あ</sup>せ<sup>せ</sup>言<sup>い</sup>百<sup>ひゃく</sup>石<sup>しやく</sup>不<sup>ふ</sup>付<sup>つ</sup>式<sup>しやく</sup>斗<sup>と</sup>六<sup>ろく</sup>升<sup>しやう</sup>と<sup>と</sup>支<sup>し</sup>米<sup>まい</sup>と<sup>と</sup>名<sup>な</sup>付<sup>つ</sup>  
 所<sup>しよ</sup>茶<sup>ちや</sup>茶<sup>ちや</sup>入<sup>い</sup>用<sup>じやうじやう</sup>令<sup>じやう</sup>ハ糖<sup>とう</sup>茶<sup>ちや</sup>代<sup>だい</sup>と<sup>と</sup>言<sup>い</sup>者<sup>しや</sup>者<sup>しや</sup>取<sup>と</sup>立<sup>た</sup>る<sup>る</sup>又<sup>また</sup>私<sup>し</sup>領<sup>りやう</sup>  
 上<sup>じやう</sup>知<sup>ち</sup>の<sup>の</sup>村<sup>むら</sup>方<sup>かた</sup>私<sup>し</sup>領<sup>りやう</sup>の<sup>の</sup>言<sup>い</sup>百<sup>ひゃく</sup>石<sup>しやく</sup>不<sup>ふ</sup>付<sup>つ</sup>支<sup>し</sup>米<sup>まい</sup>式<sup>しやく</sup>斗<sup>と</sup>より<sup>より</sup>内<sup>うち</sup>有<sup>あ</sup>れ<sup>れ</sup>  
 支<sup>し</sup>米<sup>まい</sup>免<sup>めん</sup>許<sup>きょ</sup>者<sup>しや</sup>者<sup>しや</sup>六<sup>ろく</sup>尺<sup>しやく</sup>給<sup>じゆ</sup>米<sup>まい</sup>者<sup>しや</sup>者<sup>しや</sup>式<sup>しやく</sup>斗<sup>と</sup>より<sup>より</sup>余<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>の<sup>の</sup>支<sup>し</sup>米<sup>まい</sup>あ<sup>あ</sup>れ<sup>れ</sup>  
 巴<sup>は</sup>私<sup>し</sup>領<sup>りやう</sup>引<sup>ひ</sup>舟<sup>ふね</sup>の<sup>の</sup>通<sup>とほ</sup>り<sup>り</sup>支<sup>し</sup>米<sup>まい</sup>納<sup>な</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>六<sup>ろく</sup>尺<sup>しやく</sup>給<sup>じゆ</sup>米<sup>まい</sup>ハ<sup>ハ</sup>者<sup>しや</sup>者<sup>しや</sup>事<sup>じ</sup>者<sup>しや</sup>  
 右<sup>みぎ</sup>之<sup>し</sup>役<sup>やく</sup>の<sup>の</sup>依<sup>よ</sup>ハ<sup>ハ</sup>風<sup>かぜ</sup>水<sup>みづ</sup>旱<sup>あせ</sup>虫<sup>むし</sup>の<sup>の</sup>凶<sup>あやま</sup>作<sup>しやく</sup>者<sup>しや</sup>者<sup>しや</sup>四<sup>し</sup>方<sup>かた</sup>不<sup>ふ</sup>分<sup>ぶん</sup>以上<sup>じやうじやう</sup>の<sup>の</sup>損<sup>しん</sup>毛<sup>もう</sup>  
 不<sup>ふ</sup>商<sup>あきな</sup>是<sup>こゝ</sup>巴<sup>は</sup>之<sup>し</sup>役<sup>やく</sup>免<sup>めん</sup>除<sup>じゆ</sup>の<sup>の</sup>定<sup>ぢやう</sup>法<sup>ぽう</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>者<sup>しや</sup>者<sup>しや</sup>新<sup>しん</sup>田<sup>でん</sup>者<sup>しや</sup>者<sup>しや</sup>入<sup>い</sup>る<sup>る</sup>れ<sup>れ</sup>巴<sup>は</sup>之<sup>し</sup>役<sup>やく</sup>  
 者<sup>しや</sup>者<sup>しや</sup>古<sup>こ</sup>来<sup>こ</sup>より<sup>より</sup>私<sup>し</sup>領<sup>りやう</sup>の<sup>の</sup>村<sup>むら</sup>方<sup>かた</sup>ハ<sup>ハ</sup>糖<sup>とう</sup>茶<sup>ちや</sup>代<sup>だい</sup>納<sup>な</sup>米<sup>まい</sup>者<sup>しや</sup>者<sup>しや</sup>所<sup>しよ</sup>茶<sup>ちや</sup>

茶<sup>ちや</sup>入<sup>い</sup>用<sup>じやうじやう</sup>者<sup>しや</sup>一<sup>いつ</sup>右<sup>みぎ</sup>村<sup>むら</sup>方<sup>かた</sup>上<sup>じやう</sup>知<sup>ち</sup>と<sup>と</sup>な<sup>な</sup>巴<sup>は</sup>糖<sup>とう</sup>茶<sup>ちや</sup>代<sup>だい</sup>引<sup>ひ</sup>付<sup>つ</sup>の<sup>の</sup>通<sup>とほ</sup>り<sup>り</sup>  
 上<sup>じやう</sup>納<sup>な</sup>外<sup>がい</sup>不<sup>ふ</sup>所<sup>しよ</sup>茶<sup>ちや</sup>茶<sup>ちや</sup>入<sup>い</sup>用<sup>じやうじやう</sup>者<sup>しや</sup>者<sup>しや</sup>但<sup>たゞ</sup>一<sup>いつ</sup>中<sup>ちゆう</sup>古<sup>こ</sup>私<sup>し</sup>領<sup>りやう</sup>後<sup>ご</sup>一<sup>いつ</sup>不<sup>ふ</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>  
 村<sup>むら</sup>方<sup>かた</sup>の<sup>の</sup>糖<sup>とう</sup>茶<sup>ちや</sup>代<sup>だい</sup>ハ<sup>ハ</sup>元<sup>げん</sup>米<sup>まい</sup>所<sup>しよ</sup>茶<sup>ちや</sup>茶<sup>ちや</sup>入<sup>い</sup>用<sup>じやうじやう</sup>者<sup>しや</sup>者<sup>しや</sup>一<sup>いつ</sup>其<sup>その</sup>村<sup>むら</sup>上<sup>じやう</sup>  
 知<sup>ち</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>れ<sup>れ</sup>ハ<sup>ハ</sup>糖<sup>とう</sup>茶<sup>ちや</sup>代<sup>だい</sup>免<sup>めん</sup>除<sup>じゆ</sup>者<sup>しや</sup>者<sup>しや</sup>所<sup>しよ</sup>茶<sup>ちや</sup>茶<sup>ちや</sup>入<sup>い</sup>用<sup>じやうじやう</sup>者<sup>しや</sup>者<sup>しや</sup>  
 支<sup>し</sup>米<sup>まい</sup>支<sup>し</sup>令<sup>じやう</sup>ハ<sup>ハ</sup>私<sup>し</sup>領<sup>りやう</sup>不<sup>ふ</sup>限<sup>げん</sup>る<sup>る</sup>性<sup>じやう</sup>古<sup>こ</sup>ハ<sup>ハ</sup>領<sup>りやう</sup>地<sup>ち</sup>知<sup>ち</sup>り<sup>り</sup>而<sup>しか</sup>も<sup>も</sup>より<sup>より</sup>人<sup>ひと</sup>支<sup>し</sup>を<sup>を</sup>呼<sup>よ</sup>領<sup>りやう</sup>主<sup>しゆ</sup>  
 地<sup>ち</sup>既<sup>すで</sup>而<sup>しか</sup>も<sup>も</sup>又<sup>また</sup>遠<sup>えん</sup>國<sup>こく</sup>在<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>番<sup>ばん</sup>等<sup>とう</sup>の<sup>の</sup>言<sup>い</sup>ハ<sup>ハ</sup>在<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>番<sup>ばん</sup>先<sup>せん</sup>石<sup>しやく</sup>連<sup>れん</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>ハ<sup>ハ</sup>  
 江<sup>え</sup>戸<sup>と</sup>屋<sup>や</sup>敷<sup>しき</sup>者<sup>しや</sup>者<sup>しや</sup>支<sup>し</sup>米<sup>まい</sup>と<sup>と</sup>て<sup>て</sup>き<sup>き</sup>ハ<sup>ハ</sup>一<sup>いつ</sup>而<sup>しか</sup>も<sup>も</sup>遠<sup>えん</sup>方<sup>かた</sup>の<sup>の</sup>村<sup>むら</sup>方<sup>かた</sup>ハ<sup>ハ</sup>承<sup>じやう</sup>と<sup>と</sup>支<sup>し</sup>不<sup>ふ</sup>  
 信<sup>しん</sup>て<sup>て</sup>ハ<sup>ハ</sup>農<sup>のう</sup>業<sup>ぎやう</sup>者<sup>しや</sup>者<sup>しや</sup>一<sup>いつ</sup>支<sup>し</sup>米<sup>まい</sup>支<sup>し</sup>入<sup>い</sup>用<sup>じやうじやう</sup>者<sup>しや</sup>者<sup>しや</sup>雜<sup>ざつ</sup>候<sup>こう</sup>不<sup>ふ</sup>お<sup>お</sup>よ<sup>よ</sup>び<sup>び</sup>又<sup>また</sup>  
 領<sup>りやう</sup>主<sup>しゆ</sup>地<sup>ち</sup>既<sup>すで</sup>の<sup>の</sup>方<sup>かた</sup>者<sup>しや</sup>者<sup>しや</sup>在<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>支<sup>し</sup>人<sup>ひと</sup>候<sup>こう</sup>者<sup>しや</sup>者<sup>しや</sup>不<sup>ふ</sup>辨<sup>べん</sup>利<sup>り</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>と<sup>と</sup>  
 言<sup>い</sup>不<sup>ふ</sup>信<sup>しん</sup>候<sup>こう</sup>と<sup>と</sup>支<sup>し</sup>米<sup>まい</sup>を<sup>を</sup>取<sup>と</sup>立<sup>た</sup>る<sup>る</sup>支<sup>し</sup>を<sup>を</sup>呼<sup>よ</sup>き<sup>き</sup>者<sup>しや</sup>者<sup>しや</sup>止<sup>と</sup>り<sup>り</sup>但<sup>たゞ</sup>一<sup>いつ</sup>  
 言<sup>い</sup>者<sup>しや</sup>者<sup>しや</sup>ハ<sup>ハ</sup>其<sup>その</sup>初<sup>はつ</sup>と<sup>と</sup>て<sup>て</sup>遠<sup>えん</sup>不<sup>ふ</sup>言<sup>い</sup>百<sup>ひゃく</sup>石<sup>しやく</sup>不<sup>ふ</sup>付<sup>つ</sup>式<sup>しやく</sup>斗<sup>と</sup>四<sup>し</sup>升<sup>しやう</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>ハ<sup>ハ</sup>

一五三

其斗又升をりも有りき一板ありは私領村に於て丈  
米をりしをありは前、仕来りて至る村方も有り  
今以て人丈をて差出は村方もありは例も古来  
ゆりの仕来りて用ひすこ丈令とて永く納む村方  
もあり

一領主地既遠國在番式ハ屋敷焼失等格別の臨時五  
ときハ丈令とて言百石不令三あり石立定法あり是ハ  
丈米丈令定納する村方も臨時の丈令ハ軍收ありは  
別院小をり事あり

一丈收ハ陳屋掃除人足雪切き人足或ハ陳附の取丈不  
きハ又城内多分の普請あるとて言百石不何積人と扱わ

呼き入る負數定りあり是くの仕来りて用ハ右納の  
丈收ハ丈米丈令納る村方も臨時の取尺ありあり丈  
米丈令納る村方川除用水普請等ハ人丈をきハ檢別  
地既用小正人足呼き入る勘辨ある處にあり  
糠菜代ハ古来馬飼料の糠菜初初あり正納あり  
紙何の取より代永あり納む時ハ厩入菜とて米穀と  
言小正納の取も稀ハあるあり

一不入用丈錢ハ村方より年中公用の借入用各惣村々  
村を不入用の取りまて急水川除普請入用の人丈且助  
々村々ハ宿場へさしは人馬を村用ハ人丈何  
も言割を以て出は定法なり人足ハ稀ハ出で初

廢れるるれども 無寡孤獨のる方々ハ拵あがり自方の働  
 ありくとき者あるひ人足高り多く自ら出てハ農業及  
 支小成りあ付村役人へ形み人足賃あくと差出さる  
 支錢と唱へ年中の入用百姓言割あくとさし出はむ  
 町場山方浦方候方少くあて取較多き村ハ祭別  
 割小仕来りありまこと田畑及別割あくとさし出はむ  
 古来よりの仕来り小仕来り屋一と云ありく色とハ海来  
 まども尚時差障あると於てハ以来言を小ア付べ  
 又田地へそつさる村入用ハ祭禮あるとひハ寺社奉加等  
 あり別割小いことと廢一但一兩乞等の入用地面へ  
 そつたるハ言割といはる廢一山林野言の形あくと

より入會の地相對を以て割合等あれあるまきハ本百姓ハ  
 勿論出作水呑水抱等の者まると人別割小いこと  
 廢さ事あり

一村へ入用強ハ村役人どもの物もあくと百姓さもの頼心もあるとあ  
 年中の村入用付立廢さると紙敷を積り帳面二冊仕  
 立前書不連下りし一村入用の儀ハ帳の形改々お用留  
 費定式の入用毎年の儀ハ名主手前より言いし  
 並ハ様面不ある一若臨時入用村割小成廢さるあたらハ  
 延延百姓代毎重百姓の内ある人各宅へ集め逸一お儀  
 謂なき入用ハ勿論我言を以て百姓不承心の時等改々  
 割小少も村入用減さる中り中合せ心を以て併儀の

上授ありおひは帳面小記一益普度度不割符の以登し  
 猶ふおいておは帳面小記一たる品被米金言多くとも一税  
 評儀の上おる入用お付小百姓ども一言の儀中さけ出入  
 等ふおよぶ留後者望く前書にあり一村入用帳惣百姓持  
 らは令連中二冊目移不仕立年形不支配地取込入  
 出押切中を取二冊とも村方へ持歸り年中の入用其  
 時二冊同中ふ付立る是を白紙帳といひ諸益普普不  
 正り村役人長百姓立令一廉限り金依の上割符の立  
 倉の者とも奥書中形にて翌年始て年の割紙儀たる  
 入用支線法二冊とも取不へさし中一取不おひて返り改め  
 の上不審の取ありは名主取中一取不令言の正二冊

とも取不の押切中形といひ一冊の取不へ返り冊村方へ返り  
 道法あり右小入用支線帳と取後迄あり兼雜小取帳  
 ともいふ

一 長瀬國郡上形小取帳といひ言をり物あり是へ是年  
 私領の長小取令に檢取二歩と永百五拾四文五分と七を取と  
 名付納より其品の本俸支線系史に戸支障の本帳  
 樂院の七をの取帳と言百石お付帳百目々取立来り其後  
 言増減ありて言當ハ遠くといひとも取帳は古来の  
 通り言割みて取立當時と知とありとも引付をりつて  
 右の七を取を小取帳と唱言割みく納むおれによつて  
 二取不外言をり物ハ免除あり右小取帳の起りハ古来

北野家格の長知所より薪を販寄ありと云つゝ  
江戸屋敷へも将軍の本八宰を候儀の材木を出さる様樂の  
肥前米と百姓取ふさし出さる様樂の川除等の入用地区  
取立知所所の堤川除等の普請をいし来りたる成何の  
よりり代領へ移り負敷と極め小取領と唱小物成何  
振ふ取立るあり

一 園東方菘大豆納い百石付大豆或半菘半かゝるを  
菘大豆とも或種の代米を計あり代米あれば菘大豆とも  
又石代米を費文宛はる右納方ハ正大豆納もあり又其年  
の石代令納に成るもあり或ハ何分通りハ正大豆納ハ石代  
成もありいづれも亦引付の通りハ正大豆納ハ又越

後國藩系納ハ取米をりの大正納あり正納並上振大豆と  
唱石代令納あり但し取米格取付大豆七斗を納  
方ハ凡三分通りハ大豆七分通り上振と分る上振大豆ハ  
是石代領口又正納六拾目替あり令納ある又正納斗  
の村方もあり上振斗の申もありて村々異同なり何れハ  
上振と号け安石代を納るといふ事知れど一色も若  
書の通り代米はる上分ハ田畑取米の十分一大豆納とて  
石代まで納む又亦引付あり十分一の内何れハ正大豆  
何れハ狼納と分るもあり正大豆斗り納る村もあり上分筋  
あり菘納い年一石代を定式お場書出さ場而移り五  
て並取定る右の外をり納物ハ菘大豆無限ら次私

領上知の旨引付あり春麦胡麻繩延その他不  
納る村方も稀ありある事あり

一奥州伊達信実支度三郡不吉をり定納の支残あり右三郡

四高百石不付永六百文をり支残と増く取立る如  
の状あるう是は余國の支残と遠く多分のを物あり

但し四一言といひは斗を升入る儀を言る石と凡即そ年の  
取立を四斗を升めて刻其年の四一言と凡

一右三郡不吉茶材の本役と増小物成の定納物あり何ゆ  
右の各目より納むるう状是は引付相國山奥の村

方不代是代と増定納する小物成あるより一併も其  
始詳ありは私領上知の旨引付を以て取立るあり

尚ほ新諸國も多りる事

一右三郡不吉七百文智出目といふるもの納物あり是は本途見

取立るありあ付負數ハ年々増減ありは七百文智出  
目支残多ありハ余國にあき過分のをり物あり右三郡ハ

本途見取物成末石半永七石代あり稀なる安重  
右多々根の茶納始たるありあ付支残ふに永をりは是茶材

本役七百文智出目といひは永をり右七百文智出目の往法  
ハ其年の本途見取永永零之をり負數を見其永

けし支残是茶材本役之西の永をり永四一言百石をり  
本實文より右合取の内より四一言の永をり引付り出目の本

永より引付り永をり七言をり割之をり出目永の負數より引付

徳吉ハ金五兩に永七百文幣あり、中吉より徳吉並き費文  
 幣に減り、徳吉とも本途見取の仕法ハ吉も今も幣に減る  
 由多吉代納、金五兩、尚附の納金言ハ減る、金五兩、今も幣に減る  
 仕来あり、減るも本途、吉代納の納金言と筋なく増すも  
 仕来より依て永お場遠ひ二百文を七百文幣出目と名付別帳  
 小取より、右仕中、方取小取減役てたふ示以  
 一 吉五兩

何村  
 本途  
 見取  
 守石米納  
 守石金納

本永五拾費四拾五文七分、金五兩、永七拾石幣

一 永五拾費四拾五文七分、  
伴一、本永五拾費文、永七拾石幣

一 永拾費四拾五文七分、  
伴一、本永拾費文、永七拾石幣

一 永五拾費九拾八文、  
伴一、本永五拾費文、永七拾石幣

一 永六拾之文、  
伴一、本永六拾之文、永七拾石幣

一 永六拾六拾六文九百六拾五文四十分、  
伴一、本永六拾六拾六文九百六拾五文四十分、永七拾石幣

一 永七拾七拾八拾八文八十分、  
伴一、本永七拾七拾八拾八文八十分、永七拾石幣

一 永七拾七拾七拾七拾六文六十分、  
伴一、本永七拾七拾七拾七拾六文六十分、永七拾石幣

一 永七拾七拾七拾七拾六文六十分、  
伴一、本永七拾七拾七拾七拾六文六十分、永七拾石幣

一 永七拾七拾七拾七拾六文六十分、  
伴一、本永七拾七拾七拾七拾六文六十分、永七拾石幣

一々令式拾壹枚分と永百式拾口文列七百文留出同あり

算法地方大成卷之二終



